

共 通 事 項

調合について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 混和液を混合してから粉体を徐々に加えて下さい。 ・ 粘度調整のために水を添加する場合は、1セットに対し2割が限度です。 ・ 粉体を減らすことは問題ありませんが、規定以上の水の添加、粉体の増加は性能の低下につながります。
ローラー刷毛について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防水材撤去後の状態や、防水材・タイル・金属等塗布対象物が吸水の少ない場合はローラー刷毛が使用できます。無垢のコンクリート・モルタルのように吸水の大きい下地にローラー刷毛を使用すると、液体だけが下地に吸われ粉体がローラー内に残ってしまい使用できません。 ・ ローラー刷毛推奨品 重防ローラー（大塚刷毛製造製）繊維断面が円形で凹凸がないため、粉体のはき出しが良い。
施工上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下地は十分な清掃を行って下さい。 ・ 粉体調合がシゴキ用のため、厚付けができません。塗り厚が2mmを超えるとひび割れが発生する場合があります。 ・ 厚付けや水勾配の調整をしたい場合は、レジアンダーを塗布し、指触乾燥後厚付け可能なポリマーセメントモルタルで成形して下さい。ただし溶剤系の材料を上塗りする場合はリフティングに注意して下さい。 ・ 下地が溶剤に弱い材質の場合、溶剤系プライマーの使用は厳禁です。レジアンダーは溶剤に強いが溶剤は透過しません。溶剤系プライマーを使用すると下地の溶解で剥離する危険性があります。
養生について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下地が乾燥した状態で薄塗りした場合は、約30分程度で乾燥しますが、下地に吸水性がない場合や厚く塗った場合は乾燥が遅くなります。気温・風速・日射等自然環境により乾燥時間は異なります。 ・ 下地が高湿潤状態でも確実に接着しますが、乾燥までに長い時間がかかる場合があります。
対応できない下地	<ul style="list-style-type: none"> ・ フッソ系トップコート、塩ビシート、ゴム（EPDM）シート、油面等 確認できていないものもあります。 ・ 既存のアスファルトが残存し、新規防水がトーチ工法の場合。 ・ ウレタン系の塗り床材・防水材・塗料・接着剤には接着良好ですが、ウレタン系シーリング材に対しては若干付着力が落ちます。 ・ ゴム（EPDM）シートやシルバートップは「ゴムエースP」で対応できます。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ この他にも具体的な製品についての知見もあります。 ・ ご不明な点がございましたら当社までご連絡下さい。 ・ データのないものでも、被着体をご提供いただければ、当社は積極的に接着試験を行います。